

製品・品目管理

製品・品目管理のマニュアルでは、メインメニューの「製品管理」にある項目について説明します。

1. 製品

○製品ウィンドウ

製品ウィンドウでは、取り扱うすべての製品、材料、サービスを登録します。

製品ウィンドウを開くには、メインメニューから
製品管理 > 製品管理ルール > 製品
をクリックしてください。

○製品タブ

「名前」には、製品の名前を入力してください。

「説明」の入力は任意です。

「ヘルプ/コメント」の入力は任意です。

「伝票メモ」の入力は任意です。出荷と請求で表示されます。

「UPC/EAN」(Universal Bar Code / European Article Number)は、バーコードの値を入力してください。

「SKU」は、(Stock Keeping Unit)在庫管理単位を入力できます。

「製品カテゴリー」、「税金カテゴリー」、「製品タイプ」は、必須項目です。値を選択してください。

「製品タイプ」の値を変更すると、製品タブの表示項目が変化します。「商品」は、販売する物理的な商品です。「サービス」と「資源」は、形のない役務(サービス)の提供です。「サービス」は、利用可能かどうかの制限はありませんが、「資源」は制限があります。「費用タイプ」は、コンサルタントの交通費を顧客に対して請求できる場合に使います。

「概要レベル」チェックボックスは、製品が概要レベルの場合にチェックしてください。このチェックボックスをチェックすると、ウィンドウの入力項目が少なくなります。

「測定単位」は、製品が保管される時の単位です。他の測定単位へ変換する場合は、選択した測定単位が最小である必要があります。例えば、個別に販売されたり6個パックで販売されたりする製品の場合は、測定単位として、「個別」(Each)と「6個パック」を設定した、「個別」から「6個パック」への測定単位変換を、掛ける6で設定することになります。

測定単位変換については、このマニュアルの測定単位の章を参照してください。

「分類」、「収益認識」、「仕入担当者」、「重さ」、「ボリューム」、「棚の幅」、「棚の高さ」、「棚の深さ」、「1パレットあたりの単位」は、任意の項目です。

「販売済み」チェックボックスのチェックをはずすと、収益認識の項目が非表示になります。これは実際に販売した製品にのみ収益認識の項目が必要になるためです。

「在庫する」チェックボックスは、この製品を倉庫に保管する場合にチェックしてください。チェックすると、「重さ」、「ボリューム」、「棚の幅」、「棚の高さ」、「棚の深さ」、「1パレットあたりの単位」、の項目が表示されます。

「購入済み」チェックボックスは、この製品を購入している場合にチェックしてください。

「自動配送から除外」チェックボックスは、この製品の出荷を、プロセスの中で作成されるのではな

く、手動で作成する場合にチェックしてください。このチェックボックスは、重要な製品や在庫が不足する可能性が高い製品で使うことができます。配送ルールが「強制」だった場合は、このチェックボックスは無視されます。

出荷と配送ルールは、販売管理 > 出荷 > 出荷(得意先へ)ウィンドウで設定します。配送ルールについては、販売管理のマニュアルを参照してください。

「中止済み」チェックボックスは、この製品の取り扱いを中止したことを示します。このチェックボックスをチェックすると、中止日を入力する項目が表示されます。

「部品構成表」チェックボックスは、この製品が部品構成表であることを示します。このチェックボックスをチェックすると部品構成表のための入力項目が表示されます。

部品構成表として登録された製品は、部品構成表ウィンドウで、構成部品になる製品を登録できます。

構成部品を登録した後に、「部品構成表の確認」ボタンを押すと、この製品(部品構成表)の妥当性を検証できます。

「請求書に詳細レコードを印刷」チェックボックスは、部品構成表の要素を請求書に印刷するかどうかを決定します。

「梱包リストに詳細レコードを印刷」チェックボックスは、部品構成表の要素を梱包リストに印刷するかどうかを決定します。

「画像 URL」、「説明 URL」は、この製品がウェブストアで販売される場合に使われます。

製品を新規作成したあと、保存ボタンを押すと、このウィンドウからは組織の項目は変更できなくなります。組織を変更するには、メインメニューの製品組織 処理を使ってください。

○代用品

代用品タブでは、選択した製品の代わりになる製品を設定できます。

「名前」は、この代用品の名前を入力してください。

「説明」は、この代用品の説明を入力してください。

「代用品」では、入力項目の右にある矢印ボタンを押して、製品を選択してください。ボタンを押すと製品情報ウィンドウが表示されます。

○関連製品

関連製品タブの情報は、現時点ではこのタブで表示するためだけに使われます。

関連製品タブでは、2つ以上の製品を販売促進などのために関連付けることができます。

「名前」は、この関連製品の名前を入力してください。

「説明」は、この関連製品の説明を入力してください。

「関連製品タイプ」では、代用、ウェブ販売促進、補足の中から選択してください。

「関連製品」では、入力フィールドの右側にあるアイコンをクリックして、製品情報ウィンドウから製品を選択してください。

○補充

補充タブでは、補充レポートで製品を補充する時に使われる値を設定できます。

「倉庫」では、補充の対象にしたい製品を保管している倉庫を選択してください。

「補充タイプ」では、「最低レベルより下で再注文」「最大レベルを維持」などの、発注する基準を選

扱ってください。

「最低レベル」と「最大レベル」は、在庫数量のレベルです。

「補充タイプ」が手動以外の場合は、製品(品目)は、補充レポートで使用されます。

「補充タイプ」に応じて「最低レベル」と「最大レベル」を入力してください。

入力された「補充タイプ」、「最低レベル」、「最大レベル」は、補充レポートが処理されて注文数量が決定した時に、最小注文数量と注文パック数量(発注タブで設定)に使われます。

この補充ルールが、仕入先ではなく倉庫からの補充の場合は、補充元の倉庫を選択してください。補充レポートに関する詳しい説明は、在庫管理のマニュアルを参照してください。

○購買

購買タブでは、この製品を仕入れる仕入先を設定できます。

ここで入力した情報は、メインメニューの
販売管理 > 受注 > 受注から発注を生成
で使われます。

発注ウィンドウや受注ウィンドウで表示される価格は、価格タブの値が使われます。

「取引先」の値は、デフォルト値が設定されています。

「現在の仕入先」チェックボックスをチェックすると、その取引先が価格設定と補充で使われます。

「UPC/EAN」は、バーコードの値を入力してください。

「通貨」は、この製品の金額の通貨を設定してください。

「定価」、「発注価格」、「測定単位」、「最低発注数量」、「納期」、「注文あたり固定費」、「取引先製品キー」、「受注パック数量」、「取引先カテゴリ」は、発注に関する情報を入力してください。

○取引先

取引先タブでは、この製品を将来購入する取引先を設定します。

「取引先」の項目では、この製品を購入する取引先を選択してください。

「最小保存期間%」は、この製品の最小保存期間です。

この値が0より大きいと、受注ウィンドウなどで、 $((\text{保証日付} - \text{今日の日付}) / \text{保証日数})$ が最小保存期間より小さい製品を選択することは出来ません。「すべてを表示」をチェックすれば選択できるようになります。

「最小保存可能日数」は、保証日数がある製品の最小保存可能期間です。0より大きい場合は、最小保存可能期間より小さい製品を選択することは出来ません。「すべてを表示」をチェックすれば選択できるようになります。

このタブで、取引先が設定されると、この製品の利用可能な在庫のリストは、最小保存期間%と最小保存可能日数がこのタブで設定した値以上の在庫に制限されます。

特定の取引先/製品の組み合わせで、値が見つからない場合は、取引先ウィンドウの顧客タブの値が使われます。取引先ウィンドウでも値が設定されていない場合は、期限が切れていない在庫がすべて表示されます。

これらの値は、製品が、保証日付に含まれる実物属性セットに関連付けられているときにだけ使われます。

実物属性については、このマニュアルの属性の章を参照してください。

○価格

価格タブでは、製品の価格を設定できます。ただし、製品の価格は通常は、価格リストウィンドウで設定します。

このタブの価格データは、価格リストウィンドウの製品価格タブと同じデータです。価格タブで価格を変更した後、価格リストウィンドウの製品価格タブを更新すると、価格が変更されます。

価格リストバージョンは初期値が設定されています。定価、標準価格、最低価格は、修正が可能です。

製品が部品構成表で、価格が0だった場合は、部品構成表の各部品の価格を基に価格が計算されます。この方法を使うには、すべての部品で価格リストが選択されている必要があります。

○ダウンロード

製品がダウンロード可能なデータの場合は、ダウンロードタブで情報を設定できます。

ダウンロードタブでは、製品をダウンロード販売する場合に、ダウンロード対象のファイルに関する設定をします。

「名前」には、このダウンロードファイルの名前を入力してください。

「ダウンロード URL」には、ファイルがダウンロードできる URL を入力してください。この URL は、ウェブストアで表示されます。

ダウンロードは、ひとつの製品に対して複数作成することができます。

○会計

会計タブは、製品に関する会計情報を設定します。

会計タブにある勘定科目の値は、製品タブで選択した製品カテゴリーの値が初期値として設定されます。このタブで勘定科目を変更することができます。

各勘定科目は、初期値のままにしておいても問題ありませんが、必要に応じて修正することもできます。

ここで勘定科目を修正すると、この製品カテゴリーを参照しているすべての製品で、変更した勘定科目が初期値になります。

各勘定科目の右にあるボタンをクリックすると、勘定科目を変更するためのウィンドウが表示されます。

「製品資産」は、出荷または受入の仕訳をするときに使われます。

「製品費用」は、この製品の買掛金請求が仕訳されるときに使われます。

「費用調整」は、輸送費用の買掛金請求が仕訳されるときに使われます。

「在庫クリア」は、受入と、受入に関連付けるための伝票が仕訳されるときに使われます。

「製品売上原価」は、この製品の出荷が仕訳されるときに使われます。

「購入価格差異」は、この製品の、現在の費用と発注価格との差異を仕訳するときに使われます。

この計算は、伝票の組み合わせ処理をするときに行われます。

「請求価格差異」は、現在の費用と請求価格の差異を仕訳するときに使われます。この計算は、伝票の組み合わせ処理をするときに行われます。

「受取割引料」と「承諾された仕入先間割引」は、現時点では使われません。

「製品売上」は、製品の売掛金請求が仕訳されるときに使われます。

会計処理の詳細は成績分析のマニュアルを参照してください。

○取引

取引タブは、この製品の取引をすべてリストアップします。

製品が参照されている、位置情報、移動数量、移動日付、移動タイプ、出荷/受入明細、物理在庫明細、移動明細、製造明細を表示します。

2. 製品カテゴリー

製品カテゴリーは、複数の製品をグループ分けするためのカテゴリーです。会計やレポート、価格リストで使われます。

○製品カテゴリー

製品カテゴリーウィンドウは、製品のグループを設定することができます。これらのグループは、価格リストを生成する時に、利幅を設定して使うことができます。また、製品カテゴリーごとに会計設定をすることもできます。

製品セットアップのワークフローウィンドウにある、製品カテゴリーボタンを押すと、製品カテゴリーウィンドウを開くことができます。

メインメニューから製品カテゴリーウィンドウを開くこともできます。

○製品カテゴリータブ

「名前」は、製品カテゴリーの名前を入力してください。

「説明」の入力は、任意です。

「アクティブ」チェックボックスは、この製品カテゴリーが有効かどうかを決定します。

「在庫移動方針」は、先入先出し(FIFO)または、後入れ先出し(LIFO)を選択してください。これは原価計算の方法を決定します。

「デフォルト」チェックボックスをチェックすると、製品を新規作成したときのデフォルト値として使われます。

「セルフサービス」チェックボックスは、このカテゴリーの製品がウェブストアで利用できるかどうかを示します。

「計画利幅%」は、予定されている利幅を入力してください。

「資産グループ」は、選択肢から資産グループを選択してください。

「印刷色を設定」すると、会計単位ウィンドウなどのツリーで、色が指定したものになります。

○会計パラメータタブ

会計パラメータタブでは、製品カテゴリーの会計設定をすることができます。

「製品カテゴリー」、「会計基準」、それぞれの「勘定科目」は、会計基準ウィンドウで設定した値が初期値として設定されています。

会計基準ウィンドウのデフォルト勘定科目は、初期クライアントセットアップで入力した値です。これらの初期値はここで変更することができます。ここで値を変更すると、この製品カテゴリーを参照するすべての製品の初期値になります。各勘定科目の右にあるボタンで値を変更できます。

勘定科目の詳細は、このマニュアルの製品の章を参照してください。

「原価計算手法」では、この製品カテゴリーの原価計算の方法を選択できます。

「原価計算レベル」では、原価計算のレベルを選択できます。
この製品カテゴリーの製品で、会計スキーマで設定したものと異なる原価計算方法や原価計算レベルを使いたい場合に、これらの項目を選択してください。
「勘定科目をコピー」ボタンは、更新されたデフォルト勘定科目をすべての製品へコピーします。製品レベルで特定の勘定科目を設定していた場合でも、値が上書きされます。「勘定科目をコピー」ボタンを使うときは注意してください。
会計に関する詳しい説明は、成績分析のマニュアルを参照してください。

○割り当てられた製品

割り当てられた製品タブは、選択している製品カテゴリーに割り当てられた製品を表示します。このタブのデータは読み取り専用です。実際に割当を行うには、製品ウィンドウで製品カテゴリーを選択してください。

3. 部品構成表

○部品構成表

部品構成表は、ひとつ以上の製品、サービス、他の部品構成表で構成される製品を定義することができます。
構成要素になる製品、サービス、他の部品構成表の数に制限はありません。

部品構成表は、製品タブで在庫する製品かどうかの設定をすることができます。
「在庫する」にした部品構成表は、通常の在庫する製品と同じように在庫数量が管理されます。部品構成表は「生産」ウィンドウで構成部品を消費して作成することができます。製品情報ウィンドウで表示されている在庫数は、完成品として在庫されている数量なので、生産可能な数量ではありません。

在庫しない部品構成表は、主にデータ入力を簡単にするために使われます（複数の製品を選択する代わりに部品構成表を選択できます）。製品情報ウィンドウの利用可能数量は、個別の部品の利用可能性に基づいて、利用可能かどうかが表示されます。
在庫された部品構成表の価格が 0.00 だった場合、価格は、個々の部品の合計を基にして動的に計算されます。また、価格リストを基にして部品構成表の価格を計算することもできます。在庫しない部品構成表の価格は、個々の部品の合計額です。
部品構成表チェックボックスをチェックした場合、製品ウィンドウの部品構成表タブで情報を設定できます。

部品構成表ウィンドウを表示するには、メインメニューから、
Manufacturing Management > Engineering Management > Bill of Material & Formulas > Bill of Materials & Formula
をクリックしてください。

部品構成表ウィンドウでは、製品を構成する部品を設定します。
「製品」の項目には、親の製品を構成する製品を指定してください。

「Components of Bill of Materials & Formula」のエリアでは、部品表を構成する製品を登録・修正できます。

BOMに必要な項目をすべて入力したら、製品タブに戻って「部品構成表の確認」ボタンを押してください。

このボタンは、ループになる参照をしていないか、および他の BOM が含まれているかをチェックします。処理が正しく完了すると「確認済み」チェックボックスがチェックされます。

部品構成表は、製品管理 > 生産や受注、請求、プロジェクトで使うことができます。

4. 倉庫と位置情報

位置情報は、製品を保管している位置を示すデータです。

倉庫と位置情報を設定するには、メインメニューから、

製品管理 > 製品管理ルール > 倉庫と位置情報

をクリックして、倉庫と位置情報ウィンドウを表示してください。製品セットアップのワークフローウィンドウから、開くこともできます。

○倉庫と位置情報

倉庫と位置情報ウィンドウは、倉庫の情報と倉庫内の位置情報、および倉庫内の在庫に関する会計パラメーターを設定します。ひとつの倉庫は、複数の位置情報を持ちます。

「名前」は、倉庫の名前を入力してください。

「説明」は、この倉庫の説明を入力してください。

「住所」は、この倉庫の住所を入力してください。

「要素の区切り文字」は、通常は「-」のままにしてください。

○位置情報タブ

位置情報タブでは、倉庫の位置情報を入力します。

「相対優先順位」を入力すると、出荷や受入の時に優先順位が高い位置情報が最初に使われます。

「横の位置(X)」「入れ物(Y)」「高さ(Z)」は、倉庫内の位置情報を入力してください。

この3つの項目は、通路(X)、容器(Y)、高さ(Z)などを入力してください。

ここで入力した情報は、製品ウィンドウの製品タブにある「位置情報」などで選択できるようになります。

倉庫と位置情報で一度データを保存すると、選択した組織は変更できません。

変更したい場合は、

製品管理 > 製品管理ルール > 倉庫組織

から修正してください。

○会計タブ

会計タブでは、倉庫の会計情報を入力できます。会計タブは、メニューバーのツール > 設定で、「会計タブを表示」をチェックした場合に表示されます。

会計タブの値は、会計基準のウィンドウで設定した値がデフォルト値になっています。

会計基準のデフォルト勘定科目は、初期クライアントセットアップの中に含まれています。

これらの値は、そのままにしても問題ありませんが、必要に応じて修正できます。ここで値を設定すると、この製品カテゴリーを参照している製品のデフォルト値として使われるようになります。

入力項目の右にあるボタンを押すと、勘定科目を変更することができます。
「倉庫差異」の勘定科目は、物理在庫の仕訳結果による、在庫の調整を記録するために使われます。
「倉庫在庫」、「在庫調整」、「在庫再評価」の勘定科目は、現在は使われていません。
会計処理に関する詳しい説明は、成績分析のマニュアルを参照してください。

5. 属性

製品は、属性セットを設定することができます。属性セットを使うと、同じ製品でも属性ごとに製品を識別したり、追跡したりすることができます。

属性セットには、実物属性(インスタンス属性)と実物属性でない属性の2種類があります。

実物属性セットは、コンピューターのシリアル番号など、特定の製品実体を識別するためのものです。これに対して、実物属性でない属性セットは、Tシャツのサイズや色など、検索のために使われます。

属性セットは、ロット、シリアル番号、保証日付、ユーザー定義の番号属性など、ひとつ以上の属性から作られます。

ロットとシリアル番号では、自動番号設定の方法を設定することができます。製品属性は、受入、受注、生産ウィンドウで定義することができます。

○ロット管理

ロット管理ウィンドウは、ロット番号で使われる、番号付けの定義をすることができます。

ロット管理を作成、修正するには、メインメニューから

製品管理 > 製品属性 > ロット管理

をクリックしてください。ロット管理ウィンドウが表示されます。

「名前」は、このロット管理の名前を入力してください。

「説明」は、このロット管理の説明を入力してください。

「アクティブ」チェックボックスは、このレコードが有効かどうかを表します。

「開始番号」は、このロットの最初の番号を入力してください。

「増加」では、次の番号をつけるときに加算される数値を入力してください。

「次の数字」は、次にロット番号を付ける時の数字です。この項目は、ロットが増えると自動で増加します。

「接頭語」と「接尾語」は、ロット番号の前後に付ける固定の文字です。

○除外タブ

除外タブは、特定の伝票で製品を指定した時に、新しいロットが作成されないようにすることができます。

「テーブル」の項目で、新しいロットを作成しないテーブルを選択してください。

「販売取引」チェックボックスは、除外の対象を受注伝票のみに制限します。(受注と発注は、同じテーブルに保存されるためです)

○シリアル番号管理タブ

シリアル番号管理ウィンドウでは、シリアル番号の番号付けに関する設定を行うことができます。

シリアル番号管理を作成、修正するには、メインメニューから
製品管理 > 製品属性 > シリアル番号管理
をクリックしてください。シリアル番号管理ウィンドウが表示されます。

「名前」は、このシリアル番号管理の名前を入力してください。
「説明」は、このシリアル番号管理の説明を入力してください。
「アクティブ」チェックボックスは、このレコードが有効かどうかを表します。

「開始番号」は、このシリアル番号の最初の番号を入力してください。
「増加」では、次の番号をつけるときに加算される数値を入力してください。
「次の数字」は、次のシリアル番号を付ける時の数字です。この項目は、シリアル番号が増えると自動で増加します。
「接頭語」と「接尾語」は、シリアル番号の前後に付ける固定の文字です。

○除外タブ

除外タブは、特定の伝票で製品を指定した時に、新しいシリアル番号が作成されないようにすることができます。
「テーブル」の項目で、新しいシリアル番号を作成しないテーブルを選択してください。
「販売取引」チェックボックスは、除外の対象を受注伝票のみに制限します。(受注と発注は、同じテーブルに保存されるためです)

○属性ウィンドウ

製品属性は、製品の詳細情報を付加するものです。属性は、類似の品目を見つけるための、検索用などに使われます。
例えば、Tシャツを販売する場合に、色の違いが3種類、サイズの違いが3種類あったとします。色、サイズはTシャツの属性です。
それぞれの属性の組み合わせで、同じ名前の製品を区別することができます。赤い、SサイズのTシャツを発注したり、販売したりすることができます。
属性を設定することにより、特定の属性を持った製品がどこに保管されているかを簡単に検索することができるようになります。

属性を作成、修正するには、メインメニューから
製品管理 > 製品属性 > 属性
をクリックしてください。属性ウィンドウが表示されます。

「名前」は、この属性の名前を入力してください。
「説明」は、この属性の説明を入力してください。
「アクティブ」チェックボックスは、このレコードが有効かどうかを表します。
「必須」チェックボックスは、この属性が属性セットで使われるときに必ず設定される必要があるかどうかを示します。
「実物属性セット」チェックボックスをチェックすると、この属性を持った製品が一意に決定される属性セットになります。例えば、シリアル番号を付けて製品の追跡やリコール情報を管理する場合は、「実物属性セット」をチェックします。これにより、製品実体(製品の在庫)がどの顧客に渡ったかを追跡することができます。色、サイズ、形など、同じ製品実体が2つ以上あるようば場合は、この

チェックボックスはチェックしないでください。

「属性検索」の機能はまだ実装されていません。プルダウンリストボックスから属性検索を選択できます。この項目を使うと、ひとつの検索で、複数の属性を検索することができるようになります。

○属性検索

「属性検索」の機能はまだ実装されていません。

属性検索ウィンドウは、複数の属性の組み合わせを検索することができます。

例えば、Tシャツには、S、M、Lがあり、ドレスシャツには、XS、S、M、L、XLがあったとします。この場合に別の属性を定義すると、2つの属性検索が表示されて、別の検索として扱われます。属性を結合することにより、ひとつの属性検索で、Lサイズのすべてのシャツを検索することができます。

属性検索を作成、修正するには、メインメニューから

製品管理 > 製品属性 > 属性検索

をクリックしてください。属性検索ウィンドウが表示されます。

「名前」は、この属性検索の名前を入力してください。

「説明」は、この属性検索の説明を入力してください。

「アクティブ」チェックボックスは、このレコードが有効かどうかを表します。

割り当てられた属性タブでは、この検索に割り当てられた属性に関する情報が表示されます。このタブは表示専用で、この検索に関連付けられた属性を表示します。この関連付けは属性ウィンドウで行われます。詳細は、前の節を参照してください。

○属性セット

属性セットは、ひとつ以上の属性をセットにしたものです。属性セットは製品に関連付けられます。ひとつの属性は、複数の属性セットに使うことができます。

入力された値は、製品と製品実体(製品の在庫、実物)を識別します。

属性セットを作成、修正するには、メインメニューから

製品管理 > 製品属性 > 属性セット

をクリックしてください。属性セットウィンドウが表示されます。

「名前」は、この属性セットの名前を入力してください。

「説明」は、この属性セットの説明を入力してください。

「アクティブ」チェックボックスは、このレコードが有効かどうかを表します。

「ロット」チェックボックスは、この属性セットがロット管理の属性セットであることを示します。

このチェックボックスがチェックされると、「必須のロット」「ロット管理」「ロット開始文字上書き」「ロット終了文字上書き」の入力項目が表示されます。

「必須のロット」チェックボックスは、ロット情報の入力が、属性実体を定義する時に、必須であることを示します。

「ロット管理」のセレクトボックスでは、ロット管理ウィンドウで作成した値がリスト表示されます。

「ロット開始文字上書き」と「ロット終了文字上書き」では、ロット番号の前後に付く文字を <<>> 以外にしたい場合に入力してください。

「シリアル番号」チェックボックスは、この属性セットがシリアル番号で製品を識別することを示します。

このチェックボックスがチェックされると、「必須のシリアル番号」「シリアル番号管理」「シリアル番号開始文字上書き」「シリアル番号終了文字上書き」の入力項目が表示されます。

「シリアル番号開始文字上書き」と「シリアル番号終了文字上書き」では、シリアル番号の前後に付く文字を # 以外にしたい場合に入力してください。

「保証日付」チェックボックスは、この属性セットが保証日付で製品を識別することを示します。

このチェックボックスがチェックされると、「必須の保証日付」「保証日数」の入力項目が表示されます。

「保証日数」は、製品の保証日付を計算する時に使われる日数を入力してください。

「必須の保証日付」チェックボックスは、実物属性(実際の製品に設定される属性)を定義する時に、保証日付の入力を必須にするかどうかを表します。

「実物製品属性」チェックボックスは、この属性セットが、個々の製品(特定の在庫)を識別するかどうかをあらわします。

「ロット」「シリアル番号」「保証日付」のチェックボックスがチェックされていれば、このチェックボックスも自動でチェックされます。

このチェックボックスは、販売された特定の製品(在庫)へのリンクが必要な時に使われます。

「必須タイプ」は、この実物属性セットがいつ必須になるかを選択してください。選択肢には、出荷時、常に必須、必須でない、があります。

○属性の使用タブ

「属性」では、属性ウィンドウのレコードを選択してください。

「アクティブ」チェックボックスは、この属性セットのためのこの属性が有効かどうかを表します。

「連続番号」は、属性の使用タブで表示されている属性の表示順を決定します。

○除外タブ

除外タブは、特定の伝票で製品を指定した時に、新しい属性セットが作成されないようにすることができます。

「テーブル」の項目で、新しい属性セットを作成しないテーブルを選択してください。

「販売取引」チェックボックスは、除外の対象を受注伝票のみに制限します。(受注と発注は、同じテーブルに保存されるためです)

属性セットタブに「T-Shirt」という名前の属性セットがあります。

この属性セットは、「アクティブ」チェックボックスのみがチェックされています。この設定では、特定の製品在庫を追跡する機能はありません。

属性の使用タブにある、「Color (R-G-B)」と「Size (S-M-L)」は、属性ウィンドウで設定されている属性と属性値です。

属性ウィンドウの属性タブで、「Size (S-M-L)」を選択して、属性値タブに移動すると「Large」、

「Large」、「Small」という3つのレコードがあります。これが「Size (S-M-L)」属性の属性値です。この属性値を使って製品情報ウィンドウなどで検索をおこなうことができます。

属性セットで、実物属性セットではない属性セットが定義されると、除外タブの設定はありません。

○属性の割当

属性は、受入、受注、生産などにある製品設定で割り当てることができます。

製品に属性を割り当てるには、メインメニューから

製品管理 > 製品

をクリックしてください。製品ウィンドウが表示されます。

製品タブの「属性セット」で、プルダウンから属性セットを選択できます。

「属性セット」で、属性の使用タブにレコードのある属性セットを選択してレコードを保存すると、「実物属性セット」の入力項目の右にあるボタンから属性セットを選択できます。

この方法は、実物属性セットがない属性セットを設定するときに使います。

実物属性セットは、製品受入(ロット番号など)のとき、製品出荷(シリアル番号など)のとき、製品の生産(製造実行など)のときに定義されます。

受入や出荷の時に属性を割り当てる方法については販売管理、購買管理のマニュアルを参照してください。

○属性の検索

属性を設定すると製品を属性で検索できるようになります。

メニューバーの表示 > 製品情報を選択するか、ツールバーの製品情報アイコンをクリックして、製品情報ウィンドウを表示してください。

製品情報ウィンドウでは、指定された倉庫と価格リストの製品を表示します。検索機能を使って表示する製品を絞り込むことができます。キー、名前、SKUなどで検索することもできますが、製品属性によって検索することもできます。

製品属性で検索するには、ウィンドウの右上にある製品属性ボタンを押してください。製品属性フィールドウィンドウが表示されます。

製品属性フィールドウィンドウでは、定義されているすべての製品属性が表示されます。

属性は、複数選択できます。他の検索機能と同様に、「And」検索が行われるため、選択したすべての属性に一致する製品だけが表示されます。サイズが「Large」のTシャツを表示したい場合は、サイズの属性で「Large」を選択してOKボタンを押してください。

製品情報ウィンドウの画面が元に戻り、サイズの属性が「Large」の製品がすべて表示されます。

6. 測定単位

○測定単位

測定単位ウィンドウは、金額以外の単位を設定するために使います。異なった測定単位の変換方法も設定できます。分、時間、日、作業日などの測定単位は、自動変換があらかじめ用意されています。(測定単位ウィンドウで別の測定単位の変換を設定することもできます)

変換の設定は、直接定義されている必要があります(A-B間、B-C間の変換があっても、A-C間の変換を設定する必要があります)。

測定単位ウィンドウを開くには、メインメニューから
製品管理 > 製品管理ルール > 測定単位
をクリックしてください。

○測定単位タブ

「測定単位コード」は、EDI X12 Code Data Element 355(測定のための単位、または基準)を入力してください。測定単位コードは4文字です。

「単位表示」は、この単位の表示名を入力してください。

「名前」は、測定単位の名前を入力してください。(kg mg M バイトなど)

「説明」は、この測定単位の説明を入力してください。

「標準の精度」は、端数が丸められる精度を入力してください。

「原価計算精度」は、原価計算の時の、端数が丸められる精度を入力してください。

○変換タブ

変換タブは、測定単位同士の変換比率を設定します。

「測定単位」は、測定単位タブの名前が設定されます。

「単位変更先」は、プルダウンから変更先の測定単位を選択してください。

「製品」は、この変換で使われる製品を選択してください。

「倍率」は、この変換の係数を入力してください。0より大きい必要があります。

「分割レート」は、「単位変更先」に変換する時の分割レートを入力してください。

測定単位に「6個パック」の設定がある製品は、受発注、出荷、受入で、「6個パック」を選択すると6個が1単位になり、価格が6倍になります。

7. 輸送業者

輸送業者は、製品を出荷、受入するときの輸送業者です。輸送業者は受発注で使われます。また、出荷伝票で梱包を使っている場合は、輸送情報追跡のために出荷伝票でも使われます。

輸送業者ウィンドウを開くには、メインメニューから

Manufacturing Management > Distribution Management > 輸送業者
を選択してください。

「名前」は輸送業者の名前を入力してください。

「説明」は輸送業者の説明を入力してください。

「アクティブ」チェックボックスは、このレコードが有効かどうかを表します。

「取引先」では、この輸送業者が取引先として登録されていた場合に選択してください。

「出荷情報追跡 URL」は、輸送業者が提供している配送状況のページのURLを入力してください。

貨物タブの値は、現時点では使用されません。